

# Professional

## GVD 1000-17



## 安全上の注意事項

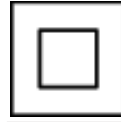


すべての注意事項をよくお読みになり、指示に従って正しく使用してください。本機を取扱説明書に従って使用しない場合、

本機に組み込まれている保護機能が損なわれることがあります。この取扱説明書を大切に保管してください。

- ▶ 1000Vを超える電圧の回路では測定を行わないでください。
- ▶ 通電の有無を判断するために検電器を使用しないでください。
- ▶ 検電器が損傷しているように見えたり、正常に機能していない場合には使用しないでください。使用する前にテストプローブに亀裂や破損がないか確認してください。
- ▶ AC 30VまたはDC 60Vより高い電圧を扱う場合は特に注意してください。この電圧でも通電導体に触れると感電し、命にかかわるおそれがあります。
- ▶ 視覚信号や音響信号が表示されなくても通電している場合があります。絶縁体、ケーブルの断面、ケーブルのシールドや電圧源からの距離が検査に影響することがあります。
- ▶ 測定中は十分な接地を行ってください。接地が十分でないと（絶縁性の優れた靴を履いたり、脚立の上に立っている場合など）、検電器は電圧を検知できなくなることがあります。
- ▶ 検電器を使用できるのは、安全な作業手順を順守する有資格者のみです。
- ▶ 検電器の修理は、必ずお買い求めの販売店、または電動工具サービスセンターにお申しつけください。専門知識を備えた担当スタッフが純正交換部品を使用して作業を行います。これにより検電器の安全性が確実に保護されます。
- ▶ 可燃性の液体、ガスまたは粉塵が存在する、爆発の危険のある環境で検電器を使用しないでください。検電器が火花を発生し、ほこりや煙に引火するおそれがあります。
- ▶ スイッチで始動、および停止操作のできない電動機械は、使用しないでください。スイッチで制御できない電動機械は危険です。修理を依頼してください。
- ▶ 検電器は、シールドケーブルや直流回路の電圧を検知することはできません。
- ▶ 極度に温度の高いまたは低い環境下、または極度に温度変化のある場所で検電器を使用しないでください。車の中などに長時間放置しないでください。周囲温度が急激に変化した場合、検電器を周囲温度に順応させてからスイッチを入れてください。極度に温度が高いまたは低い場合や温度変化が大きい場合には、本機の精度が低下することがあります。

### 記号とその意味



二重絶縁または強化絶縁を備えた機器



注意、感電の危険！

## 製品と仕様について

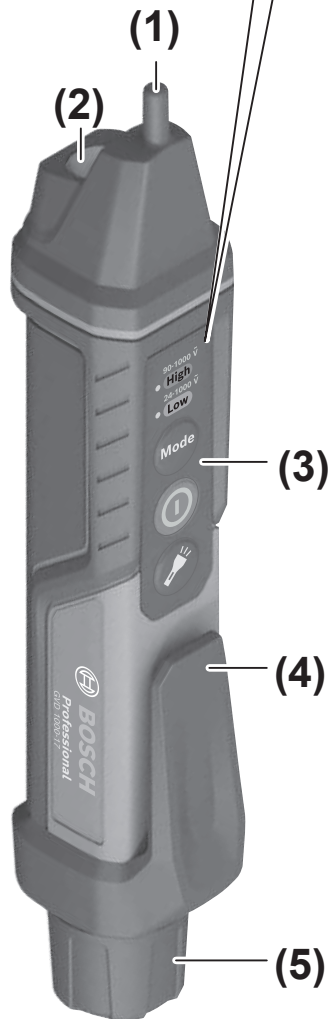
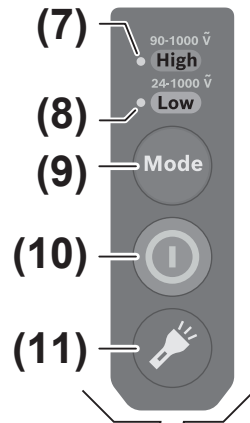
### 用途

検電器は、24～1000Vの交流電圧を非接触式で検査できるように設計されています。

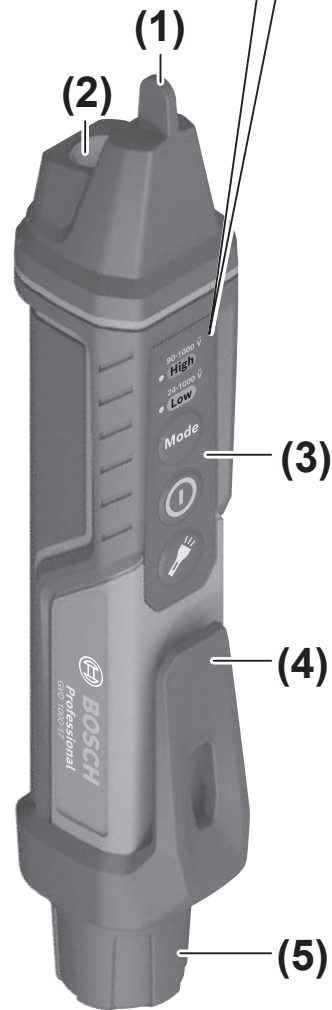
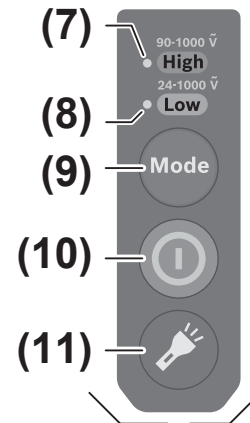
検電器は屋内での使用に適しています。

### 各部の名称

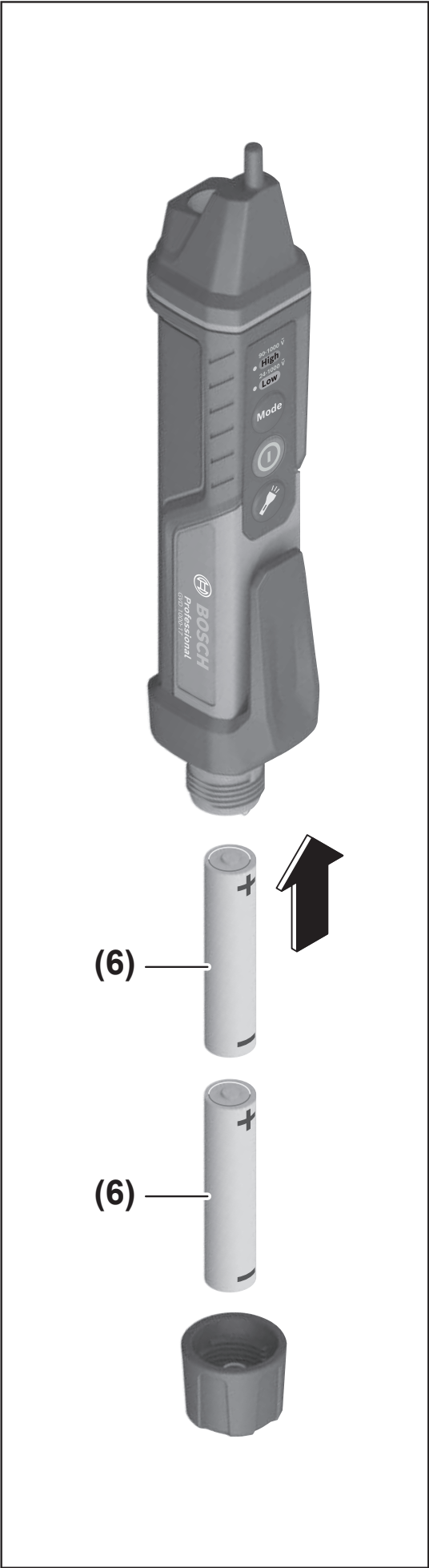
記載のコンポーネントの番号は、本機の図中の表示に対応しています。



**3 601 K77 000**



**3 601 K77 0K0**  
**3 601 K77 050**



- (1) テストプローブ
- (2) ライト
- (3) コントロールパネル
- (4) ベルトフック
- (5) 電池収納キャップ
- (6) 電池<sup>A)</sup>
- (7) **High**高電圧モード用LED (90~1000 V AC)
- (8) **Low**低電圧モード用LED (24~1000 V AC)
- (9) **Mode**モードボタン
- (10) **ⓘ**電源ボタン
- (11) **🔦**ライトON/OFFボタン

A このアクセサリは標準付属品には含まれません。  
)

## テクニカルデータ

検電器		GVD 1000-17
部品番号	3 601 K77 0..	
測定範囲	90 ~ 1000 V AC / 24 ~ 1000 V AC	
周波数範囲	50/60 Hz	
<b>仕様全般</b>		
使用温度範囲	-10°C ~ +50°C	
保管温度範囲	-40°C ~ +70°C	
最大相対湿度	80 % ( 結露なきこと )	
使用可能標高	2000m	
IEC 61010-1による汚染度 <sup>A)</sup>	2	
自動電源オフ機能、約	5分	
質量 <sup>B)</sup>	0.05kg	
保護等級	IP 67 ( 防塵・防水性能 )	
安全クラス	CAT IV 1000 V <sup>C)</sup>	
寸法 (長さ × 幅 × 高さ)	161.5 × 28 × 33 mm	
電池	1.5V LR03 ( 単4 ) × 2本	

A 非導電性の汚染のみが発生し、結露によって一時的に導電性が引き起こされる場合があります。

B 重量 (電池なし)  
)

C 測定カテゴリIVは、建造物の低電圧主電源設備に接続される) 試験および測定回路に適用されます。

## 電池のセット/交換

本機の作動には、アルカリマンガン電池の使用を推奨します。

- » 電池収納キャップ(5)を外します。
- » 電池をセットします。

**ⓘ** 電池はすべて同じタイミングで交換してください。また、複数のメーカーに分けたりせず、単一メーカーの同じ容量の電池のみを使用してください。

**ⓘ** この際、検電器の側面に記載された電池の正しい向きに注意してください。

電池切れになると、シグナル音が鳴り、2つのLED ((7)/(8)) が点滅し、検電器がオフになります。

▶ **本機を長期間使用しない場合は、本機から電池を取り出してください。** 電池を本機の中に長期間入れたままにすると、電池が腐食することがあります。

## 操作

- ▶ **検査を行う前に、既知の電圧源で検電器を毎回テストしてください。**
- ▶ **検電器を水分や直射日光から保護してください。**

## 電源の "入/切"

» ボタン **ⓘ** を押して、検電器の電源を入れます。すると、検電器はセルフテストを実施します。シグナル音が鳴って検電器が振動し、テストプローブ(1)が赤/緑/オレンジで点滅して、2つのLED ((7)/(8)) が点滅します。セルフテストが完了すると、高電圧モード用LED **High** が白色で点灯し、テストプローブ(1)が緑色で点灯します。これで、検電器は90~1000Vの交流電圧を検出できるようになりました。セルフテストは、検電器がオフになるまでバックグラウンドで5秒おきに繰り返し実行されます。セルフテストが正常に終わらないと、検電器はオフになります。

» ボタン **ⓘ** を押し続けると、検電器がオフになります。その際、シグナル音が鳴ります。

**ⓘ** スタート時にシグナル音が聞こえない場合、および/または検電器が振動しない場合は、検電器を使用しないでください。

検電器のボタンを約5分間操作しなかったり、電圧を検出しないと、電池の消耗を抑えるために検電器が自動的にオフになります。

## 測定手順

電源を入れると、検電器は高電圧モードになり、高電圧モード用LED **High** が白色で点灯します。

» 電圧範囲を低電圧モードに切り替えるには、ボタン **Mode** を押します。すると、低電圧モード用 LED **Low** が白色で点灯します。これで、検電器は 24~1000V の交流電圧を検出できるようになりました。

① 検電器を低電圧モード **Low** にすると、電氣的干渉や妨害の影響を受けやすくなります。低電圧モードは、電界の弱い環境でのみ使用してください。


» テストプローブ **(1)** をテスト対象物または交流電圧が供給されるコンセントに近づけます。

交流電圧が検出されると、シグナル音が鳴り、検電器が振動します。シグナル音と振動回数は、検出した電圧が大きくなるにつれて多くなります。

テストプローブ **(1)** により、検電テスターの様々な状態が以下の表のように伝えられます。


テストプローブ	意味
緑色	使用可能、電圧の検出なし
赤色	交流電圧を検出
オレンジ色の点滅	50V以下の交流電圧を検出

## ライト

» ボタン  を押すと、ライトのオン/オフが切り替わります。

検電器を約5分間使用しないと、ライトは自動的にオフになります。

## シグナル音

» ボタン  を約1.5秒間押し続けると、シグナル音がオフになります。

次に検電器の電源を入れたときに、シグナル音は再び作動可能な状態となります。

## トラブルシューティング

### 検電器の電源が入らない。

**原因**：バッテリー電圧が十分でない（2.4V未満）。

**対処**：電池を交換してください。

### 検電器が電圧を検出しない。

**原因**：使用者が検電器をしっかり握っていないか、または検電中に手袋を着用している。

**対処**：手袋をはめずに検電器を手でつかんでください。

**原因**：チェックする配線の一部が埋め込み状態になっている、またはアースされた金属ケーブルの中にある。

**対処**：測定に適した地絡のない箇所を探してください。

**原因**：電圧源から発生する磁場に乱れが生じているか、または抑制されている。

**対処**：問題を解消してください。

**原因**：検電器をテクニカルデータに従って使用していない。

**対処**：（参照 „テクニカルデータ“, ページ 5）を参照してください。

## お手入れと保管

### 保守と清掃

検電器を常に清潔に保ってください。

検電器を水やその他の液体の中に入れてください。

汚れは水気を含んだ柔らかい布で拭き取ってください。洗剤や溶剤を使用しないでください。

修理の際は検電器をお送りください。

## カスタマーサービス & 使い方のご相談

### 日本

お客様のご使用状況によって、修理費用を申し受ける場合があります。あらかじめご了承ください。

ボッシュ株式会社 電動工具事業部

〒224-003 神奈川県横浜市都筑区中川中央1-9-32

コールセンターフリーダイヤル 0120-345-762

（土・日・祝日を除く、午前 9:00 ~ 午後 5:30）

ホームページ: <http://www.bosch.co.jp>

ボッシュ電動工具サービスセンター

〒355-0813 埼玉県比企郡滑川町月輪1464番地4

TEL 0493-56-5030

FAX 0493-56-5032

ボッシュ電動工具サービスセンター西日本

〒811-0104 福岡県糟屋郡新宮町の野741-1

TEL 092-963-3486

FAX 092-963-3407

お問い合わせまたは交換パーツの注文の際には、必ず本製品の銘板に基づき10桁の部品番号をお知らせください。

### 廃棄

メジャーリングツール、アクセサリと梱包材は、環境に適合した方法でリサイクルしてください。



メジャーリングツールとバッテリーを一般の家庭用ごみとして廃棄しないでください！